

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人湖東会
事業所名	グループホームハートフル
訪問調査日	平成20年10月24日
評価確定日	平成20年10月31日
評価機関名	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2571800024
法人名	社会福祉法人湖東会
事業所名	グループホームハートフル
所在地	滋賀県犬上郡多賀町中川原605-2 (電 話) 0749-48-2600

評価機関名	特定非営利活動法人福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9-4F		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	10月31日

【情報提供票より】(平成20年9月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年9月11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤4人(兼務1人), 非常勤4人, 常勤換算7.1人	

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1 階建て 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	12,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	180円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ	50円	
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低 80 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大辻医院・豊郷病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症対応型事業所として、利用者が心地よく過ごせるように家庭的な雰囲気醸成し出し、食事や入浴などの日常生活の支援を行っている。年々、利用者の高齢化などで残存機能の活用が難しくなる中、出来る範囲内で利用者の潜在的な力を引き出し、職員と共に家事を行う姿はほほえましく感じられた。職員の利用者への声掛けのタイミング、特に利用者同士や職員との明るく暖かな関係には、「その人らしく暮らす」という事業所の理念にかなうものとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 広報誌「はーとふるだより」の定期刊行が着実に実施されている。また、家族会の設置や事業計画書の運営推進会議での提示、苦情解決制度の説明文書の掲示、医療連携体制の確保など、前回の外部評価で明確になった課題の多くは改善されてきている点は高く評価できる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の手法については、職員一人ひとりが実施した後に会議で話し合ったうえでホームとしての自己評価をまとめるという流れが定着している。これによりそれぞれの評価項目について具体的な実践の点検に基づいた評価がなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催されており、メンバーのうち、家族代表や利用者代表、民生委員等を毎年交代することで幅広い観点からホームの運営がさらに良くなるように取り組んでいることは特徴的である。議題のうち、定例議題は2ヶ月間のホームの状況報告や運営に関する重要な案件となっている。その他の議題はそれぞれのメンバーから柔軟に出してもらうことを尊重している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族向けの広報誌「はーとふるだより」を2ヶ月に1回の頻度で発行し、行事のスナップ写真などを織り交ぜて状況を伝達している。なお、これまで請求書と一緒に連絡事項を送付していたが、別便で送付することで確実に連絡が届くように工夫した。また、家族会も設置され直接報告する機会もできた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人の敷地内のホームという不利な立地条件であるが、法人が開催する夏祭りで地域住民と交流したり、幼稚園児との交流、近隣の夏祭りに参加する等、積極的に地域の人々との交流に努めている。さらに近隣地域の老人会への参加を予定しているので実現が待たれる。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念や職員が守るべき教訓の他、独自の理念「その人らしく生きる姿を尊重し思いの背景を汲み温かな心と専門性をもって支えます」を全職員で検討して作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や廊下、事務室に理念を掲示することで職員がいつでも理念を思い起こすことができるようにしている。また、支援の際に職員がどう行動すべきか迷ったような場合は月1回のケアワーカー会議で検討する機会を持つことで職員間で具体的な理念の実践方法を共有化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の敷地内のホームという不利な立地条件であるが、法人が開催する夏祭りで地域住民と交流したり、幼稚園児との交流、近隣の夏祭りに参加する等、積極的に地域の人々との交流に努めている。	○	さらに近隣地域の老人会への参加を予定しているので実現が待たれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価で指摘された内容の改善が着実になされている他、自己評価は職員一人ひとりが実施した後に会議で話し合ったうえでホームとしての自己評価をまとめる流れが定着している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されており、メンバーのうち、家族代表や利用者代表、民生委員等を毎年交代することで幅広い観点からホームの運営がさらに良くなるように取り組んでいることは特徴的である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターによる認知症キャラバンメイトとしての関わりやグループホーム部会での関わりのなかで行政担当者と意見交換したり、他のグループホームとの情報交換や連携を図ることで地域全体の介護サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けの広報誌「はーとふるだより」を2ヶ月に1回の頻度で発行し、行事のスナップ写真などを織り交ぜて状況を伝達している。なお、これまで請求書と一緒に連絡事項を送付していたが、別便で送付することで確実に連絡が届くように工夫した。また、家族会も設置され直接報告する機会もできた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも気軽に意見や要望が出せるように取り組んだ。また、法人として家族アンケートや利用者アンケートを毎年実施することが恒例となっており、その集計結果を玄関に備付けることで意見や要望に対する改善状況を確認することもできる。	○	家族会の際にホームの管理者や職員と話す機会を持つだけでなく苑長と話す機会も予定する等、ホーム運営に関して日頃家族が感じていることや意見が直接伝達できるように取り組んでいる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高い状況となっており、それぞれの利用者との密な関係性を維持していると判断できる。新規採用の職員については、利用者に紹介することはもちろん、家族に向けてもホームだよりに写真を添えて紹介することで説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で作成した職能に応じた研修・指導がなされている。また、専門性を高める外部研修の情報は法人経由で入手するためその情報量は多い。また、職員の資格取得について奨励しており、勤務等を調整している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会で相互の交換研修が実施されているため、他のホームの業務を知ることで自らのホームの具体的な長所あるいは改善課題を実感する機会がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人に関する様々な情報を得るために家族との面談を実施している。また、利用者本人の利用開始時の不安解消のために、お試しショートという名目で短期利用をしてもらうように促している。	○	利用者本人に関する情報収集だけでなく、利用者家族の不安解消や悩みなどを事前に把握できるような仕組みづくりが課題となっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に食事したり、買い物に出かけたり、近くの銭湯に出かけている他、らっきょう漬けや味噌づくりを一緒にする等の取り組みにより、利用者と職員という立場を超えてホームで一緒に暮らしているという雰囲気となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の利用者との会話を通じたコミュニケーションはもちろん、各職員はホームの理念にもある「思いの背景を汲む」姿勢を維持しつつ利用者の気持ちを把握しようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の策定は入所まもなく暫定プランを策定してから正式の介護計画を策定することで利用者に適したものとなるようにしている。また、月1回のケアワーカー会議で利用者の状況はもちろん家族側の意見等も含めて個々の利用者へのケアの方法について検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の更新の際やケアワーカー会議での検討を経て見直しをする機会がある。その際には必ず利用者家族からの同意を得るが、面会の時などに時間をとり直接説明して同意を得るように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域性もあり、新入所者が併設施設利用者であった場合には馴染みの職員が顔を見せたり、訪問などの交流がある。さらに、併設のデイサービスからはハロウィーンパーティーの扮装で利用者を喜ばせる突然の訪問など、常に相互の交流と相乗効果が伺える。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時からのかかりつけ医を有する利用者の診療には家族の動向を依頼している。今年度、医療連携体制の確立で、より関係性が高くなった。さらに、高齢者在宅医療の専門医による往診も行われ、安心して適切な医療が受けられる体制作りができつつある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度後半、重度化対応として「重度化した場合における対応に係る指針」を策定し「看取り介護に対しての同意書」を得た。今年度、医療連携体制を結び、主治医との連携が密になったと共に、今後高齢化が進んでくる中、週1回の訪問看護の来訪により、適切な支援体制が出来た。	○	今年度から締結した医療連携加算体制と重度化への対応、看取り介護の策定に対して、今後、主治医や訪問看護ステーションとさらなる連携のもと、そのときのために支援の体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して誇りや尊厳を尊重し、プライバシーや羞恥心に配慮した対応がなされている。特に、排泄の支援に対しては、対応に配慮し尊厳が損なわれないように心がけている。個人情報の利用目的を掲げ、個人情報の使用に係る同意書も得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念でもある「その人らしく生きる姿を尊重する」ことをモットーに、その人の生活のリズムや思いを大切にしている。要望や意向が言い易いような雰囲気を作り、買い物の希望や晩酌に対しても応えている。さらに入浴の拒否にも受け入れる姿勢を示すと共に、状況に即した誘導などで対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や禁食に配慮して代替食を提供している。また、嚥下対策として、刻み食も行っている。地域からの野菜の差し入れや畑の作物、今年度から始めた生協の活用で食材も豊富であり、食の安全性にも配慮している。利用者全員が女性のため、食事の準備とともに、洗い物は進んで行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別な行事などの場合を除いて、金曜日以外毎日の入浴を可能としている。利用者の状況やタイミングを図って声掛けや誘導をしており、夕方に実施している。季節に応じた入浴剤の使用などで楽しめるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の生活歴や習慣を考慮し、日常生活の中から、炊事や家事に自然に係れるように配慮しており、その中でも役割を与える事で、責任感や誇りが感じられるよう心がけている。また、畑仕事や草取りなどでは、働く事の喜びと楽しみが感じられるよう取り組んでいる。	○	利用者の高齢者に伴い、出来る役割や楽しみにも、今後変化が見られることと思われる。利用者が持っている残存機能を活かし、喜びにも繋がる役割や楽しみの開拓や工夫の検討に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や散歩のほか、月に1回ほど行われる外食や地域行事への参加、カラオケ、整髪などその人の要望に応じて外出の機会がある。さらに日帰り旅行や併設施設へ、友達を訪ねるなど自由に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外には施錠しないよう職員に徹底しており、鍵を掛ける事の弊害に対して理解している。新入所者によって、帰宅願望が強いなど、高リスクを抱える場合には、家族の了解の下、期間を限定して行うこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や水害などの災害対策には、毎月の防災訓練や夜間帯を想定した訓練などで、利用者も防災頭巾やタオルを使った避難方法を身につけている。さらに、火災通報専用電話の設置や夜間帯緊急時呼び出しとして、併設施設の各フロアの電話を記し、緊急時に備えている。	○	災害時の対策として、必要な利用者情報の持ち出しを、携帯できる様な大きさに準備するなど、不測の事態に備える体制作りが求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量は記録に残し、少なくとも1000CC以上、1500CCを目標に支援している。特に利用者の好みに即して、コーヒーや紅茶、日本茶、スポーツ飲料などを、その人の状態に合わせて提供している。現在、嚥下の状況によりとろみをつけるなどの支援を始めた利用者もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはカフェテラスが出来るよう、白い椅子、テーブルを配し、窓には宿根の朝顔(オーシャンブルー)を植えたり、四季折々の花々により楽しんでいる。ディールームには大きな窓が設置され、採光にも優れ、BGMを流したり、アロマなどを取り入れるなど心地よく過ごせる環境作りに力が注がれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の環境や生活習慣に配慮して、馴染みの家具や調度品の持込を促進している。利用者によっては故人の月命日に僧侶に来てもらい、他の利用者も一緒にお参りをするなど、利用者本人が心地よく過ごせるよう配慮している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにしよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 湖東会 いぬかみハートフルセンター
(ユニット名)	グループホーム ハートフル
所在地 (県・市町村名)	滋賀県犬上郡多賀町中川原605-2
記入者名 (管理者)	浅居 絹代
記入日	平成 20 年 9 月 11 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「その人らしく生きる姿を尊重し、思いの背景を汲み温かな心と専門性をもって・・・」との理念を明示し、家族会、ボランティア、運営推進委員会等に広報している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日の申し送りの中で理念に沿って支援できているかどうかを確認し、理念が定着していくように図っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会にて理念の取り組みや、地域に出向いてグループホームの理解をしていただけるよう認知症の出前講座にも積極的に参加している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域のどこへ出向いていっても、気軽に寄っていただけるように声掛けをしている。その甲斐もあって利用者のお友達が遊びに来ていただけるようになった。面会者の送迎も申し出ている。	○ 施設の立地が近所との交流できる条件になっていないので、多賀町の地域のサロンには何処へでも参加させていただけるように声掛けして、交流を持っている。今後も拡大していき、交流を深めたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏祭りを開催し、家族や地域の日赤ボランティアと協力してたくさんの地域との交流が出来た。また、幼稚園児との春祭り、慰問、近隣の夏祭りへの参加等積極的に交流が出来た。地域の地蔵盆には地域に帰り共に食事し交流を深める事ができた。	○ 今後は出身地域、近隣地域の老人会に参加を積極的に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームでの暮らし振りを地域に出向いて、支援の方法や認知症の症状に対しての声掛け、認知症を防ぐ生活の仕方など話せる場を地域包括に依頼している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己及び外部評価の意義を理解している。毎年の自己評価の課題を検討しつつ、個別ケアの改善や実践につながる様、努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の定期的な開催や新年度構成員の交代、家族の役員交代をするなど、新しい発想での意見を幅広く受けられるように工夫している。また、普段の暮らし振りを見ていただけるよう、会議は常にグループホーム内で行い、利用者全員参加をしている。また、代表家族以外に運営推進会議の内容を送付し、理解していただき機会を設けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが行っている認知症キャラバンメイトのメイトとして地域の役員等の交流を深めたり、グループホーム部会の施設実習、地域のボランティア等の受け入れて介護サービスの向上や認知症介護への啓発、啓蒙に取り組んでいる。、		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に権利擁護の利用の必要性が出てきたとき、出身地域の社会福祉協議会に連絡し、地域振興局の職員にも協力を依頼して、相談している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や着替えの際に身体全体をチェックする、出来るような目線でケアが向上していくよう指導している。虐待が見過ごされる事のないようにつなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はゆっくりとした時間をかけて説明を行ったり、また考える時間やゆとりをもっている。また、解約する時は、十分な日数もち、家族が十分納得された時点で退所の手続きをとっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言えるような関係づくりを心掛けている。意見・苦情・不満は日誌に記録し、職員が周知徹底できるよう伝達している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回「はーとふるだより」を発刊している。発刊月には家族に送付し、普段の暮らしぶりやケアプランの変更時には随時来て頂き説明を行う機会を連絡している。又、バイタルや健康状態のすぐれないような状態がでたら、家族に連絡し面会なり様子観察をする旨を報告させていただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも言える雰囲気を持てる環境をつくるように職員に指導している。また玄関や施設の中に意見箱を設置、投書しやすいような場所、環境を整えている。マニュアルも整備し、意見箱の開封、企画会議にて職員全体で共有している。	○	第三者委員会の設置のお知らせや意見箱の設置のお知らせをしている。また第三者委員の方にも役割を説明している。また12月の家族会にて利用者家族が苑長に話せる場を作る予定をしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回CW会議を開催し、疑問点、提案、意見等を発表する機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間帯も利用者の状況に合わせて変更をし、対応している。利用者を主体に考え、調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職に伴う移動はあるが、その他の移動は極力避けている。馴染み関係を継続していけるよう運営者に進言している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた育成に取り組んでいる。職能を法人で作成し、統一した育成や個人の能力に応じた指導をしている。また、研修会には機会がある時には参加を促したり、資格取得のための情報・シフトの調整を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦根・犬上のグループホーム部会では、年間に渡って管理者及び職員の交換研修が行われ、質の向上を図るよう取り組みをしている。研修にも積極的に参加し、ネットワークづくりや勉強会に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会を計画したり、旅行に行くなどのときは連休を取得できるよう協力体制を取っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の支援や職員が向上心をもって働けるよう職能評価を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はもとより、御家族にも協力していただき詳細に渡って聞き取りやセンター方式の記入をして頂き、その人らしく生活が出来るよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所までに何回か見学、訪問をして頂きケアマネからも情報を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望を聞き、出来る限り対応している。併設施設のサービスも利用しながら支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに家族との面談や、利用者の現在の状況、思いを聞き取り出来る限りギャップがないようにしている。利用する前に日帰り旅行への参加を計画したり、短期利用を計画したりしている。	○	今後は少しの時間でも何回か来ていただける様家族とも相談をするようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活のなかで、一緒に食事したり買い物に出かけたり掃除、調理をして生活をしている。また、近くの銭湯へ行き裸の付き合いをしている。昔からのらっきょ漬け、味噌づくりを教えてもらって一緒にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お誕生会には御家族の出席を依頼したり、家族会を通じて居室の掃除を親子でしていただいたりその後では、食事したりしている。	○	今年の12月は家族会で大掃除を計画していただいているので、その後は忘年会を予定している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が会いたがっている御家族には会える様に一緒に訪問している。外出や行事、電話で話して連絡が取れるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加していただいたり、地域の方が面会に来ていただけるように支援している。	○	利用者のお友達が気軽に来ていただけるよう、送迎をさせて頂くことを伝達している。今のところ遠慮もあつてか、送迎する事はなかったが職員の思いを時間をかけて理解していただけるように継続していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新しく入ってこられた利用者の気持ちを折に触れ話したり、食堂の席を考えたりしている。食後の後かたづけの出来ない人の食器洗いや現状に触れ、いたわり合いの気持ちを持てるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に行かれた方には1年に1回は面会に利用者と訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を出来るだけ入所時に家族に記入していただき、情報を基に支援方法を日々検討している。毎日細部にわたって記録をいれ、情報を共有し、支援を統一している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記入やその後の情報を記録している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活面や心理面を日誌等で職員全員で共有、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式をツールとして介護計画を作成している。家族には入所時までに記入していただき、利用者が戸惑う事がすこしでも少ないようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、認定期間の更新時はもとより随時変化があったとき、定期的なケアワーカー会議にも検討している。また、見直しが必要な時には家族に報告し、確認していただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	<p>新規の入居者が以前デイサービスを利用したり、特養のショートステイを利用されたりしていたことから馴染みのある職員に顔を出してもらったり、デイや特養に訪問し、交流をするなど随時可能な体制である。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診時にゆっくりとした時間を出来るだけ作り、医師や看護師に問題提供し、支持や指導を仰いでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設されているデイサービスの看護師には、個人のバイタル情報をファイルし保管してもらっている。緊急時に備えている。又医療連携体制により日常の健康管理が出来ている。	○	訪問看護ステーションの看護師が毎週(金曜日)に訪問して、問診、バイタル等の測定を行い、CWの医療相談、質問などにも助言を頂いている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の疾病が重度に至らないうちに受診し、早期に回復できるよう努めている。又、入院にいたった場合は介護サマリーを届けるなどして情報交換している。また、医療相談員との相談など頻繁に連絡をとり、状態把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応、終末期ケア対応指針、身取り介護についての同意書を書面にて整備し、家族会にて説明、新入居者に対しては重要事項説明と同時に説明されている。	○	医療連携体制をむすんでからは、主治医との連携が円滑になった。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在の所利用者の心身の状態は安定しており、支援をする状態になっていないが指針にあげている内容には折りに触れ話している。家族会でも説明をし、家族の仮眠部屋等考えている。	○	今後は、家族が付き添えるような備品をそろえていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近ではグループホームから特養へ移動された利用者が居られたが、同じ併設施設への移行で家人・本人の希望でもありダメージは少ない。また、情報は常に行い、頻繁に面会に行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	元々、利用者が排泄の言葉に対してオープンにしているが、職員同士でも今後は個人が特定されないように配慮するようにしたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		晩酌されている方には継続して晩酌を楽しんでいただき、買い物と一緒に好きなおやつをおこずかいで購入していただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の訴えのない方には、排泄の記録を記入し、家人・主治医との連携を取っている。また、薬に頼らないでスムーズな排泄が出来るように食事から取り入れて便秘にならないように心掛けている。	○	排泄の訴えが少なくなっている利用者に対して、介護計画で組んでいる。オムツはずしを今後は考えていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングで毎日入浴を可能としている。また、入浴剤を使用して、楽しんで入浴できるように工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後は高齢のこともあり、軽くお昼寝タイムを作っている。精神的に落ち着いていただけるように御香をたいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の生活歴を参考にしながら、日々生活の中に取り入れている。畑仕事や草取り、調理、時にはカラオケに行ったりして楽しんでいる。今までの趣味や特技が加齢や認知症の出現で出来なくなっている。	○	これまで使用していた楽器等持ち込んでいただき、続けてもらう。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必ず買い物には声掛けし、出来る限り外出の機会を設けている。その際には、おこずかいを持ってもらい、好きなおやつや食材を購入していただけるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意思により自由に出かけられるように支援している。毎日の日課には散歩やお友達に会いに行き来するなどして出かけておられる。また、ほぼ毎月行事を作って外食、花見、地域行事への参加、日帰り家族旅行等でかけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会で家族と共に日帰り旅行を行った。利用者の状況により日帰り、宿泊かを考慮している。行き先は家族会で話し合って決定している。	○	今後は個別に希望を聞き、出かけた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	グループホーム内にある公衆電話で自由にお小遣いから電話されている。電話代の両替や施設の電話も時には使用してもらっている。年末には年賀状を家族宛に書いてもらって送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況に応じて出来る限り身体拘束をしない支援を考えている。どうしても必要な時には、家族の同意を得て記録している。	○	どうしても身体拘束につながるような行為をする場合は、記録に残るように指導している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が鍵を掛ける事の弊害を理解している。夜間以外は戸締りをしないよう開錠している。万が一徘徊の状態になったときや、他の利用者へのリスクが高い時は家人了解の元、施錠させていただいている。	○	運営推進会議での話のなかでも議題にして、理解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は介護者が常に一人ひとりの居場所を確認するよう折に触れ、意識付けが出来るよう指導している。また、徘徊者が入居されたときは、月に一回ではあるが探索訓練を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室に置く物は様々で、必要であれば無くす方向で考えるのではなく、置く方法を考えている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、避難訓練を行っている。普段から危機管理を利用者、職員が感じられるように取り組んでいる。施設全体で、研修に参加したり、個人的に救急救命の研修を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個人的に町の研修に参加したり、施設内で研修を行ったりしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常口の場所、自動火災報知設備、自動火災通報装置が完備できている。施設全体での訓練にも参加している。	○	施設全体が地域の消防団への参加を出来るよう検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	考えられるリスクは御家族に説明している。又、リスクを考慮した支援策を家族と話し合い、協力体制を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定をしている。記録し情報の共有を図っている。また、少しの変化も家族に報告し、予測される事を話している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日勤者夜勤者それぞれがその日の申し送りや記録を見て状態を把握している。また、一人ひとりの薬剤情報を必要時に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の水分量が1000ml以上は摂取出来る様に努めている。また、水分以外にも食事に無理なく自然に摂取しながら、程度の運動も個人個人に支援している。3食のご飯に寒天を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入歯の方は週に2回、ポリデントにて消毒している。又、食後は言葉掛けや出来ない方には口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に入れて職員全体で把握出来るようにしている。また、支援が必要な利用者には好んで飲んでいただける飲み物(ポカリスエット等)を常時飲んでいただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルや研修を受けており、基本的な知識は得ている。特に手洗いや冬には面会時に風邪の方は控えていただいたり、マスクの着用をしていただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	こまめに買い物をする様に心掛けている。又、生協にも加入して食材を豊富にし、新鮮なうちに使い切るように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームだけの玄関から出入りしていただけるようにお知らせしている。花や窓から自然に入るよう青葉を楽しんでいただいている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から朝顔のつたや花が見られ、喜んでいただいている。入浴には季節感が出る入浴剤をいれたり、季節の花を飾ったり、アロマを取り入れ、精神的にもリラックスしていただけるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間や全体にこだわらずいつでも好きな時間をもてるよう支援している。又、利用者同時お互いの居室に訪問して、話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が生活習慣に合わせてベッドの持込や馴染みのある家具、お仏壇等も持って来ていただいている。入所前に説明し、食器、箸、湯のみにいたる細かい物まで持って来ていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や食堂、外壁に温湿度計をかけ、外気温との差が大きにならないように調節している。出来る限り自然の空気が入ってくるように窓を開けたりして、換気している。	○	冬季には乾燥予防と適度な湿度を確保する為、加湿器を設置している。常に温湿度計をみている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	馴染みのある家具やダンス、ベッドを入所時に持ち込んでいただけるように御家族に声掛けしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが解かるように看板を立てたり、表札を掛け自分の居室が一目でわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の窓に腰掛けられるように椅子を置いたりしている。花に水やりをしながら休憩できるようにしている。夏はバーベキューをしている。	○	気候の良い日などは、外でお茶したりできるテーブルや椅子をセットし、自由にいただけるように工夫している。夏場には、窓からグリーンを楽しめるように、オーシャンブルーを植えたり、ゴーヤを植えて室温の調整を行っている。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族会を開催するたびに色々な意見を頂き、グループホームの運営に反映されている。ボランティアの方々も、毎月来ていただき、楽しみの一つとして手作りのおやつをいただき利用者との馴染みの関係を築いている。大切にしていきたいところである。また、利用者の出身地域の方も少しずつではあるが理解をしていただいている。開放された地域の一員としたグループホームとして努力していている。